

今月の interviewer
大月短期大学 左から
いしいうたや
石井詩也さん、
みきげんと
三木元登さん



連載

夢を叶える 大月仕事人

地域の人とのつながりを大切に

“夢を叶える大月仕事人”の連載第16回目は、猿橋にある深澤畳店で畳職人をされている深澤郁さんに、大月短期大学生がインタビューしました。



- 1.2. 深澤畳店にてお話を伺いました。
- 3. 畳を使ったカレンダーやティッシュカバーを見せていただきました。
- 4.5. イ草と樹脂の素材感の違い、高級品と粗悪品の品質の違いについて教えていただきました。

【畳の持つ温かさ】



—大月の将来の可能性について教えてください—
交通の便はいいので、工夫次第で東京方面からも人が来やすくなると

さんある事や、地域の人とのさまざま
つながりかと思えます。
私も商売をやっている、つながり
があるからこそ大月市内で畳の仕事
ができています。畳屋さんは、お客
さんのお家へ上がるお仕事なので、
地域間での人とのつながりは本当に
大切です。
大月の課題は、人が少ない事です。
特に若い人が大月から出てしまっ
ていると思います。
遊ぶ所がなく、良い所もあります
が住みにくい部分があります。

—ご職業について教えてください—
畳職人をしています。主には、一
般の家庭・寺院にある畳の張り替え
と、畳の新規制作を行っています。
20歳の時にこの業界に入ったので、
17年この仕事をしています。
厚生労働大臣認定の1級畳製作技
能検定資格を取得しています。
—その仕事についたきっかけは何で
—ですか？
自分の父が畳職人であったことも



#16
深澤 郁 さん
Profile
畳職人 七保町生まれ 猿橋町在住
情報処理系の専門学校を卒業後、
20歳のとき畳業の門をたたく。畳職人17年目。
趣味は息子の少年野球とゴルフ。

あり、専門学校を卒業後に自然と手
伝うようになりました。小さい時か
ら畳職人の父の姿を見てきたので、
いつしか畳業をしていくのが当たり
前になっていたのかもしれない。
—この仕事をしていてやりがいを感じ
る事はどんな事ですか？
古くなった畳を交換して、お客さ
んに「きれいになって気持ちが良い」
とか「畳を新しくするとこんなに良
い匂いがするんだね」と言われた時
がうれしくて、やりがいを感じます。

思います。大月市が実施しているサ
テライトオフィスも良いと思いま
す。観光面でも猿橋には結構多くの
観光客が来ているので、観光地の周
りに何かあれば良いと思います。
あとは、若い人たちの力で大月市を
盛り上げて欲しいです。
—私たち若者へのメッセージをお願
いします
今、自分が楽しめる事を楽しんで

お客さんとの信頼関係を大切に

深澤さんは、「人の家にあがる仕事だから」と、お客さんとの信頼関係を大切にされてきました。深澤さんはとても気さくな方で、畳を使ったインテリアや、畳に使われる素材、産地ごとの特徴について詳しく教えていただき、畳の持つ温かみを知りました。畳は定期的なメンテナンスが必要なため、今後も深澤さんには、地域に欠かせない存在として、さらなるご活躍を期待しています。



—深澤さんの将来の夢や目標を教えてください—
現在、フローリングのお部屋が主流になり畳のお部屋が減少してしま
す。しかし、畳文化は古来からある
日本独自の文化でありながらも、近
年はイ草だけでなく、介護施設など
に使用する水や汚れに強いナイロン
製の畳や、従来の緑色だけではなく多
種多様な部屋に対応できるような畳は
変化を遂げています。
—そんな従来の「畳文化」はもちろ
んのこと、近年の畳文化も混ぜなが
ら、畳職人として若者からお年寄り
まで多くの人に「畳」に興味を持っ
てもらえたらうれしいです。



—深澤さんが感じる大月の魅力と課
題を教えてください—

大月の魅力は、山などの緑がたく
ほしいですね。
将来、何になりたいとか目標が見
つからない人も多いかもしれませ
ん。それでも、今できる事、趣味だっ
たり勉強だったり資格を取得したり
して、今の時間を大切にすることが
将来の自分に結びついたりするかも
しれませんから…。
そして、自分が仕事・家庭を持つ
た時に今の経験や人と人とのつなが
りが良い影響になると思います。